



# 埋文だより

第23号

平成12年7月31日発行

## 上野原遺跡見学者40万人達成!!



植栽された樹木が鮮やかな若葉をつけた6月14日、国分市上野原遺跡は平成9年5月27日の現地公開開始以来の見学者が40万人に達しました。

40万人目という幸運に恵まれたのは、東市来町立湯田小学校のPTA研修で訪れた迫桂子さん。40万人達成宣言が行われた後、記念のセレモニーが行われ、当センターの井上所長と一緒にくす玉を割り、当センター職員が製作した石斧(標本箱入り)と写真パネルが贈呈されました。

上野原遺跡は宮崎、東京など県外からも9万人近くの見学者が訪れています。また、学

校の遠足などでの利用も多く、火起こしや弓矢などの体験学習も増えています。

### 目次

	頁
・上野原遺跡40万人達成	…1
・井上所長にインタビュー	…2
・ようこそ長期研修生のみなさん	…3
・見えてきた	…4
……武遺跡	
鹿児島城下町	……山下遺跡
・発掘遺跡紹介	…5
……耳取遺跡	
……猿引遺跡	
・催し物のご案内	…6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、  
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、  
入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

## 井上新所長にインタビュー



今年の4月から、吉永和人前所長の後任に井上明文所長が就任しました。そこで、井上新所長に抱負などを聞きました。

### 異動を告げられたときの感想

高校社会科(日本史)の教師だったこともあり、縁のある身近な場所だと思った。

### 埋蔵文化財センターのありかた

埋蔵文化財の発掘調査の成果やセンターの諸事業を、インターネットで紹介したりマスコミ等で紹介することで、県民に埋蔵文化財を身近に感じてもらいたいと思っている。そのことを通して、文化財愛護の意識高揚を図りたい。

### 埋蔵文化財センターの果たす役割

鹿児島島の歴史や自然、そして先人の生活や知恵に触れることのできる埋蔵文化財は、これから始まる「総合的な学習」にふさわしい教材と考えている。また、県民の財産である埋蔵文化財を使った自主的な体験学習や研修が県内の各種関係団体や学校等で実施できるようバックアップすることは、センターの大きな役割のひとつと考えている。そのためには、県民が埋蔵文化財を身近に感じられるよう遺跡などの情報提供や説明方法を工夫することが重要だと考える。埋蔵文化財センターの職員に望むこと

埋蔵文化財に対する世間の意識が高まりつつあるなかで、センターの将来像をどう描くのか各人は問題意識を持ってしっかりと考えてほしい。県内には、全国に誇れる学術的にも貴重な遺跡が数多くあり、2002年には調査研究・学習・交流などの機能を備えた縄文発信基地としての立派な施設もできる。何より県民の大きな期待がある。これらに恥じない取り組みをしてほしい。また、埋蔵文化財全般について、職員の忌憚のないいろいろな意見をぜひ聞かせてほしい。

(平成12年6月30日 横手浩二郎取材)

## センターにG・ハンコック夫妻が来訪!!

去る4月17日、「神々の指紋」などの著作で知られるイギリス人作家グラハム・ハンコック氏夫妻が当センターと上野原遺跡を訪れました。今回は、日本を調べるという目的で、沖縄を手始めに全国を北上する旅の途中での訪問だそうです。特に火山灰土層に埋もれた遺跡の有り方や、縄文時代早期の集落の形態や、復元住居、貝殻文土器、壺形土器に興味を示され、調査されていました。

一方有名な写真家である奥さんは、写真でも日本のことを伝えたいと、遺物や遺跡を精力的に撮影していました。



## ようこそ！長期研修生のみなさん

今年も、市町村の埋蔵文化財専門職員として、基礎的な知識および技術を習得する長期研修講座(5月8日～11月7日)が始まり、受講される5名の方々に抱負などをお聞きしました。

～～朝隈兼典（颯娃町教育委員会）～～

今後、颯娃城の発掘をする予定があるので、調査結果を町民に還元するなどして埋蔵文化財に関する町民の関心を高めていきたいと思っています。

～～梅木 康（財部町教育委員会）～～

周知の遺跡の保護や埋蔵文化財の普及啓発活動をがんばろうと思います。また、そのための知識などを研修で習得しようと考えています。

～～柿川幸司（大口市教育委員会）～～

大口市には重要な遺跡があるので、そうした遺跡があることを、市民のみなさんに広めていきたいと考えています。

～～萩原潤一郎（東郷町教育委員会）～～

関係機関と協議し連携を図りながら埋文行政を進めていきたいです。また、社会教育の一環として広く啓発にも努めていけたらと思います。

～～前田和信（輝北町教育委員会）～～

小・中学生に遺跡探しを体験させたり考古学セミナーを開いたりなど、埋蔵文化財を市町村の歴史教育に取り入れたいと考えています。

## 発掘現場へいらっしやいませ！

◎埋文センターが行う発掘調査

～見学・発掘体験などの問い合わせお待ちしております。センター(0995-65-8787)までどうぞ。

	遺跡名	所在地	調査期間
1	桐木 B	末吉町	5/8～3/31
2	耳取	財部町	5/8～8/31
3	踊場	財部町	5/8～3/31
4	高篠	財部町	5/8～8/31
5	関山西	末吉町	11/1～12/28
6	関山	末吉町	11/1～2/28
7	唐尾	末吉町	1/5～3/31
8	西原段 1	大隅町	11/1～3/31
9	大坪	出水市	5/1～3/31
10	計志加里	川内市	5/1～8/31
11	薩摩国分寺下	川内市	11/1～3/31
12	大島	川内市	9/1～10/31
13	鍛冶屋馬場	川内市	9/1～12/27
14	上野城跡	川内市	5/1～3/31
15	上ノ平	伊集院町	12/1～3/31
16	山ノ脇ほか	伊集院町	6/1～9/31
17	梅落	伊集院町	10/1～11/31
18	池之頭	東市来町	7/3～7/14
19	安茶ヶ原ほか	市来町ほか	5/8～7/28

	遺跡名	所在地	調査期間
20	猿引・雪山	東市来町	5/8～6/30
21	高井田	加治木町	5/8～7/30
22	桐木	末吉町	6/1～3/31
23	根木原	鹿屋市	5/8～2/28
24	東郷坂 A	喜入町	10/30～11/17
25	鳴之原	川辺町	8/21～9/15
26	山ノ田	松山町	12/11～1/12
27	野里小西	鹿屋市	5/8～8/4
28	諏訪尾	吾平町	8/7～10/27
28	三角山	中種子町	10/1～3/31
29	山下	鹿児島市	5/29～7/21
30	芝原ほか	金峰町	4/24～3/31
31	諏訪前ほか	金峰町・吹上町	4/24～3/31
32	瀬戸頭 A	伊集院町	5/28～3/31
33	横井竹ノ山	鹿児島市	5/28～3/31

## 見えてきた鹿児島城下町



### ①藩政期のお寺

#### 武遺跡《鹿児島市西田》

武遺跡は九州新幹線鹿児島ルート<sup>ほんせいき</sup>の建設に伴って調査された遺跡で、本年度はJR西鹿児島駅西口の西約300mの地点を調査しました。遺跡からは18～19世紀の陶磁器や瓦などが出土したほか、寿国寺に伴う門前池とみられる遺構が検出されました。寿国寺は江戸中期に建立された黄檗宗の寺院で、門前に造られた池は沓池と呼ばれ、聖域と俗世界を隔てる特別な意味を持っていると言われています。池の石垣の下には、胴木と呼ばれる木材を敷設し、石垣の安定性を高める工夫がなされていました。このような技術は、鹿児島城(鶴丸城)二ノ丸跡や西田橋にも用いられています。現在の武町一帯は、伊集院へ向かう街道(現在の水上坂)沿いに発展した寺町でした。近世薩摩藩の仏教寺院は、明治時代の廃仏毀釈によってそのほとんどが破壊されてしまいましたが、今回の調査は、藩政期の仏教文化の痕跡を確かめることができ、貴重な機会となりました。

### ②これでなにが買えたでしょう？

#### 山下遺跡《鹿児島市山下町》

山下遺跡は旧県庁の跡地にあります。ここは鹿児島城(現黎明館、県立図書館)の目の前だけに、天保年間(1830年頃)に描かれた「鹿児島城下絵図」によると、当時は「垂水島津家」と「宮之城島津家」の武家屋敷があったことがわかります。今回の調査では、これを裏付けるように屋敷の柱の礎石の列が発見されました。さらに、兩岸に石垣を築いた溝も発見されました。絵図にある屋敷の境ではないかと考えられます。

一方、遺物では江戸時代の大量の陶磁器や瓦、古銭などが出土しました。古銭の中には、「天保二朱金」と呼ばれる金貨が1枚出土しました。これ8枚で小判1枚に相当し、現在の物価では米が約5kg買えるようです。とても小さい金貨なので偶然に落としたのではないかと考えられますが、必死で探すお侍？の姿が想像されます。また幕末に輸入されたイギリス製の陶磁器も出土しています。異国情緒漂う絵柄を、どんな気持ちで眺めたことでしょう。



## 24,000年前の祈り

### 耳取遺跡 《財部町》

耳取遺跡は、海拔約280mの台地にあります。これまでに、古墳時代～旧石器時代の遺構や遺物が見つかりました。特にシラス直上の地層から、人為的に線を刻んだ石(線刻礫)が出土しました。これは、手足を省略した女性像(ヴィーナス)と思われます。長さ約5cm、幅約4cm、厚さ約2.5cmと小さいですが、この石から次のようなことがわかります。

まず、日本最古の線刻礫であるということです。理化学的に年代を測定した結果、約24,000年前のものとなりました。大分県岩戸遺跡出土のコケシ状の石偶より約4000年も古いものです。

次に、旧石器時代の精神文化を知る貴重な資料

だということです。獲物を追うだけの生活だったのではなく、何らかの世界観を持っていたことが伺えます。このほか、線刻礫の出土した層からは60基以上の調理施設と思われる礫群、剥片尖頭器と呼ばれる槍の穂先も出土しています。



## こんなところにもいた旧石器人

### 猿引遺跡 《東市来町》

猿引遺跡は標高約110～115mの尾根状の台地にあります。南九州西回り自動車道建設に伴い5～6月に発掘調査が行われました。その結果、旧石器時代の礫群1基が検出されています。また、調査区域内南側の溝状に窪んだ部分にだけ、旧石器時代の遺物が出土する包含層が残っていることがわかりました。この層からは、旧石器時代の台形石器や剥片など約3,000点の遺物が出土しており、約15,000年前ごろの年代が考えられます。旧石器時代の遺跡は台地の縁辺部で見られることが多いのですが、遺物の出土状況などを考えると、猿引遺跡は今までに例のない立地条件を持つ遺跡といえるのではないのでしょうか。



遺跡の近くには現在でも湧き水がみられることや眺めがよいことなどから、旧石器時代の人々にとって住みやすい環境だったのかもしれない。

## 《催し物の御案内》

- ◎「われら縄文体験隊」  
集石、連穴土坑を使った縄文料理や土器・石器づくりなどを体験できます。

- 期 日 毎月第4土曜日  
(3・4・10・12月をのぞく)
- 対 象 小学生(保護者同伴)、中学生  
高校生及び一般  
定員40名程度

- 参加費 100円

- 応募方法

(個人の応募)

下記の事項を往復はがきに記入し、  
往復ハガキで申し込んでください。

- ①住所、②氏名、③電話番号、  
④学校名・学年、⑤保護者名、  
⑥希望する期日

(団体応募)

所定の用紙に記入し、FAXまたは郵  
送にて申し込んでください。

- 申込期日 実施月の第2土曜日まで

- 申込先・連絡先

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
「われら縄文体験隊係」

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117

- ◎歴史のふるさと県民セミナー

～南の豊かな縄文文化・上野原遺跡への招待～

パネル巡回展と県立埋蔵文化財センター職  
員による講演会を開催いたします。

(開催月・市町村)

6月	吉田町	11月	祁答院町
7月	知名町	12月	東町
8月	串木野市	1月	財部町
9月	佐多町	2月	南種子町
10月	開聞町	3月	菱刈町

- ◎平成12年度人事異動

- 転出者

	転出者	転出先
所 長	吉永和人	県立額娃高等学校校長
主 査	政倉孝弘	学校施設課主査
文化財主事	安藤浩	財部町立財部南小学校 教頭
"	富田逸郎	鹿児島商業高等学校 教諭
"	前田誠	徳之島町立亀津小学校 教諭
非常勤職員 (退職)	松村智行	竜郷町役場 (平11年12月付)
	古江真美	国分市教育委員会
	大窪祥晃	加治木町教育委員会

- 転入者

	転入者	前任地
所 長	井上明文	県立錦江湾高等学校 教頭
主 査	栗山和己	県立吹上高等学校事務 主査
文化財 研究員	菅牟田勉	鹿児島市立錦江台小学 校教諭
"	上床真	新規採用
"	川口雅之	"
"	馬籠亮道	"
"	切通雅子	(期限付き採用)
非常勤職員 (新規採用)	徳田有希乃(平12年1月付)	栗山葉子
	橋口亘	西吾意子
	樋渡将太郎	松本信光
	立神勇志	森田裕之

埋文だより 第23号

発行日：平成12年7月31日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117

E-mail: maibun@po.pref.kagoshima.jp